

## 平成22年度局配分枠予算について

行 財 政 局

### 1 局配分枠予算編成に当たっての考え方

行財政局配分枠予算は、人件費37%、物件費3%、公債費39%、繰出金21%、という構成になっている。

本市の危機的な財政状況から、人件費については、21年度予算編成時に引き続き、「京都未来まちづくりプラン」に基づく必要額の精査を行った。また、事務事業の見直しによる市民生活への影響を可能な限り抑制するため、緊急の人件費抑制策としての全職員給与減額措置や職員厚生会事業主負担の凍結を2年連続で実施し、さらなる財源不足の解消に努めた。

物件費については、行財政局予算の多くを占める内部管理及び維持管理的な経費に対し、各所属において一定の目標を定めた事務経費の節減を行い、「京都未来まちづくりプラン」の内容を着実に実行できるよう、限られた財源の中で効率的な予算の編成に努めた。

### 2 局配分枠予算における主な新規・充実事業

#### <新規事業>

外郭団体職員に対する研修の実施	500千円
芸術大学サテライト施設管理運営事業	17,783千円
芸術大学130周年記念事業	3,000千円
芸術系大学就職支援事業（緊急雇用創出事業）	9,600千円

#### <充実事業>

市政史編さん事業（第4回配本に向けた原稿作成）	全体事業費 11,736千円（うち充実分 3,000千円）
地方税電子申告システムの改修（国税とのデータ連携に向けたシステムの改修）	全体事業費 193,014千円（うち充実分 126,000千円）
電子入札システムの更新	全体事業費 151,775千円（うち充実分 74,040千円）
滞納整理事務の強化（高額滞納者に対する金融機関への預金照会手数料）	全体事業費 34,331千円（うち充実分 4,000千円）
緊急雇用対策に伴い実施する臨時的任用職員の雇用（緊急雇用創出事業）	全体事業費 174,700千円（うち充実分 124,700千円）